

## どんな研究センター？

国立情報学研究所とLINE株式会社により設置された共同研究部門です。「頑強な知識基盤(Robust Intelligence)」と「社会課題解決型技術(Social Technology)」について、関連領域の基礎研究を推進し、社会課題解決に資する科学技術イノベーションを生み出すため、新たな科学知識に基づく革新的技術のシーズを創出することを目的としています。

委託研究、共同研究の枠組みで、幅広い研究機関との連携を構築し、「関連領域の基礎研究を推進し、社会課題解決に資する価値をもたらす科学技術イノベーションを生み出す新たな科学知識に基づく革新的技術のシーズを創出する」という、これまでにない特徴を有します。

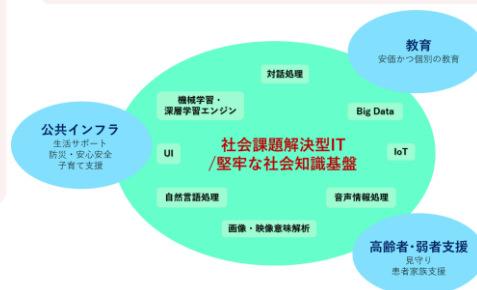
## 取り組み

「頑強な知識基盤」の実現と、それによる「社会課題解決型技術」の構築には、単に従来の学術の体系や方向の延長線上にある研究のみならず、潜在的な問題を見出しながら、これまでとは根本的に異なる問題解決手法を提示する研究、いわゆる「0」から「1」の創造活動に資する研究が必要です。この様な観点から、2019年1月から9件、2019年9月から8件の研究を公募により選定し、大学やその他の研究機関に委託して2020年3月まで進めました。また、そこで挙げられた成果を昇華させ、大学、NII、LINEの共同による7件の研究が現在進行中です。

この他、兵庫県、尼崎市、丹波市、京都大学大学院情報学研究科、LINE株式会社と共同で、「LINEを活用した社会課題解決手法の研究」という、市政に関する市民からのチャットベースの問い合わせシステムの実証実験を2019年3月まで進めました。このシステムは、尼崎市、丹波市において、現在も利用されています。

## 何ができる？

ロバストインテリジェンス(RI)は、AI、コンピュータビジョン、自然言語処理、機械学習、計算神経科学、認知科学、および関連分野の研究を統合・進歩させる知識基盤であり、CRISでは各要素技術の個別領域における研究、並びにRIを構築する上での領域横断的な研究を実施しています。



更にその応用として少子高齢化、教育・情報・生活面等での格差拡大、大規模災害への対応など、現代日本社会が直面するさまざまな社会課題に対し、ロバストインテリジェンス及びその要素技術を活用した課題解決へのシステム（仕組み）を探索する研究を実施しています。

これらの取り組みは、文部科学省の国立大学法人評価委員会が高く評価され、「国立大学法人等の平成30年度評価結果について」に、注目すべき事項の1つとして掲載されました。

